



沈静化を見せていたソマリア沖で海賊襲撃が2年半ぶりに発生しました。本号では、ソマリア沖で発生する海賊問題の統計的な傾向や対策状況も交え、物流に与える影響についてお届けいたします。

1. 2年半ぶりのソマリア沖の海賊襲撃

2016年10月22日朝、ソマリア沖東方約330海里的地点(北緯4°28′東経53°23′)で海賊による商船襲撃が発生しました。

襲撃を受けたのは、アラブ首長国連邦から南アフリカ向けに石油製品を積載するケミカルタンカー”CPO KOREA”(29,636トン、2009年建造、英国籍)でした。

武装した6人の男が高速ボートで接近したことから、本船同乗の武装警備員と銃撃に発展、その間に本船は増速、転進、放水などの対応策を行い、海賊は逃走し、本船は無事海賊の撃退に成功しました。

今回事件では、幸い負傷者も船体損傷もなく、ソマリア沖での海賊襲撃事案としては、2014年2月以来、実に2年半ぶりに発生したものと報道されています。



地図：Google map (印は襲撃地点)

2. ソマリア海賊事件の発生件数推移

アジアと欧州を結ぶ海上交通路での航行の安全確保は、年間およそ1,600隻の関係船舶がアデン湾を航行するわが国にとってのみならず、国際社会にとって極めて重要な課題といえます。ソマリア海賊は、強盗目的とは一線を画し、高額の身代金を目当てに乗組員を人質にし、船舶そのものを支配するハイジャック目的の襲撃がほとんどといわれています。

ICC(国際商業会議所)下部機関のIMB(国際海事局)のデータによると、ソマリア海賊は2008年頃から急増し、2011年には237件まで増加、当時は全世界の海賊事案の半数以上がソマリア海賊という状況にまでなりました。活動海域は、当初は主にアデン湾で集中的に発生、その後、ソマリア東方海域、そして西インド洋まで拡大、ソマリア周辺は航行船舶にとって非常に危険な海域と懸念されていました。

しかし、国際社会の諸取組が寄与し、ソマリア海賊は2012年以降沈静化を見せ、2015年にはついにゼロになったところでした。ソマリア海賊件数の増減に呼応して、全世界の海賊発生件数も2010年の445件、2011年の439件をピークにその後減少をたどり、昨年は240件であったと報告されています。



3. 海賊対策の現況と物流への影響

ソマリア海賊がここ数年で大きく減少した理由は複合的で、主には以下のものが挙げられ、国際社会による海賊対策の成果といえます(参照:海上保安庁「2015年 海賊対処レポート」)。

- ・アデン湾におけるわが国自衛隊を含む各国海軍等による海賊対処活動の継続
- ・商船側による BMP(ベストマネジメントプラクティス)に基づく自衛措置の実施
- ・商船への武装警備員の乗船

一方で、今回、あらためてソマリア海賊は未だ根絶はしていないことが確認され、更には「アフリカの角」と呼ばれる本沖合で発生した事件として、10月27日号で既報の通り、イエメン沖での LNG 船への海賊襲撃(タンカーにロケット弾攻撃)も起きているため、スエズ運河を経由する欧州・アジア間の海上輸送に影響を与えかねません。引き続き海賊リスクを過小評価せず、適切に警戒・対処していく必要があります。



本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。

船舶・貨物・運送の保険の情報サイト「マリンサイト」

http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/hojin/marine_site/index2.html